

グループトーク「私たちは原子力とどう付き合うか」

C班：7人（視察メンバーである稲田氏を含む）

稲田：では、私から失礼します。

地域振興の話もありましたが、メリットは素直に受け入れてもいいのではないかなと思います。

一方で、リスクはあります。このリスクを正しく認識した上で、実際に事故や災害が起きたときの対応について取り組みをしっかりとした上で、その情報を共有することが重要ではないかと感じました。以上です。

—— 私は、「原子力は安全だ」ということをひっくり返すような福島事故が起きて、未だに事故の収拾の見通しが無いということを考えれば、危険なものは徐々に減らして、エネルギーはどちらにせよ必要なので、再生エネルギーに転換していく必要があるのではないかと思います。

あとは、原子力発電に伴っていろいろな技術も発展してきたわけですから、その技術をどのように産業として活かしていくのか、ということを考えていく必要があるのかなと思います。

—— 安全って何だろう、ということをもう少し考える必要があると思っています。安全というのは、究極的には人が死なないことだと思うのですが、福島事故で分かったように、原発の事故が起こってしまうと、土地が使えなくなってしまうので、そういうことも十分大きなリスクで、それをどこまで考えるかが大事だと思います。

最近多いのですけれども、先ほど先生もおっしゃっていたのですけれども、1か0ではなくて、リスクという考え方でまとめることが大事だなと思っています。

事故が起きないということを求めてしまうと、じゃあ事故が起きたときにどうするのかという議論が進まないで、逆に、事故ゼロを追い求めることは危険、という考え方もあるのではないかと思います。

これは、考えがまとまる前にバツと書いてしまったのですけれども、原発って、もっと何かポジティブな価値を考え出すべき時期になっているのではないかと思います。例えば、原発の周りはずごくモニタリングがしっかりしている。放射線という危険なものがあるからこそ、その周りは本当に安全なのかということをしつかり見ている。何もないところよりは、しつかり放射線のあるなしを見ている。逆に、そういう意味では、放射線がないですよ、と言い切れるメリットもある。そういうプラスの情報、付加価値を出していいのではないかと、ということを考えても面白いかなと思っています。

—— どう付き合うかという、原子力には、エネルギー利用と、放射線や放射性物質の利用があって。前に調べた人がいて、日本で利用されている（原子力の）エネルギー量って、10年くらい前のデータですけども、経済効果で（原子力全体の）50%以下。45～46%。放射線、放射性物質の量は、これは医学療法が多いのですけれども、（原子力全体の）50数%です。2つの輪で走っているということがあまり普及されていないというか、それが知られていないということは、私からすると寂しいなど。

もちろん、放射線、放射性物質の危険性はあるわけですが、原子力の利用は、基本的に住民、国民のためにある。その観点で追及していく。これによって利用も深まるし、そういう観点からやっぱり今のあの原発は問題だということであれば、それは改善していかなければいけないし、中止していかなければならないかもしれない、と思っています。

—— いろいろな安全性の規制基準で、問題がないようにという方向にだんだんなっているのですけれども、物事に完全というのは絶対にありません。必ず何かが起こる、ということ的前提に、先ほどおっしゃったように、安全性を100%確保できるということではなくて、何かが起こっても問題がないような対策をあらかじめ取っておくということが絶対に必要です。今の新規制基準はそういった対応をやるようとしているわけですけども、私は、あれを守れば放射性物質のリリースが起こるような事故にはもうほとんどならないのではないかと考えています。ですから、そういう安全性の確保をしながら、原発を利用していくというのが必要なのではないかなと。特に最近の異常気象を見ていると、やはり地球温暖化の影響があるのではないかなという気がしますので、そういう意味ではそういうふうに行く（原子力発電を利用する）必要があるのではないかと気がしています。

—— まず、原子力は、「日本では」という枕詞が付いていますけれども、日本では重要なエネルギー源であるということです。原子力のリスクが騒がれる中でも、世界的には今おっしゃったように大きい枠組みというか、地球温暖化のほうが重視されている中で、日本は化石燃料をいっぱい燃やしてCO₂を出していくのか、という社会的な批判を受ける可能性もあると思うので、原子力は、現状の技術を考えれば、有効に使っていく必要のあるものだろうと考えています。

ただ、先ほど皆さんがおっしゃられている通り、まったく事故がゼロかということ、そういうものではないので、リスクがあるものとして認知して、どのように向き合っていくかということを、事業者、立地地域、はたまた日本全国で考えていくことが必要なのかなと思っています。また、リスク、リスクと言っておきながら、それってどういうものなのと。それって大きいのか？ 小さいのか？ どうなの？ ということを皆が同じような物差しで測れるようにする必要があるな、とちょっと感じていて。そういった表現の方法を少し考えていく必要があるのかなとは思いました。

—— 皆さんのご意見と同じような感じですがけれども、原子力や放射線というものは、福島事故もあって、リスクは絶対に出てくるものだということが分かったので、安全対策強化に力を入れていながら、安全に使えるという形で付き合っていかなければならないのだなというふうに感じています。

あとは、原子力について、メリット、デメリットを理解しながら、付き合っていく。悪いイメージだけではなくて、こういういろいろないい面もあるんだよということを理解しながら、付き合っていけばいいのかなと感じました。

稲田：お話し足りない方はご意見をいただければと思います。

—— 先ほどのモニタリングがしっかりしているという話は少し思うところがあって。今、福島のほうで、全量放射線をチェックして、出荷して、実は世界で唯一、放射線が低いとお墨付きがついた米になっていて。逆に、他の米は分かっていないということなので。結局事故から出たことではあるのですけれども、そういったところもあるのかなと思いました。

—— ひとつ言い忘れたのは、おそらく、今後も何らかの形で事故が起こると思うのですけれども、そういうことが起こったときの補償体制を、もっと政府は本腰を入れるべきだと思います。今の福島を見ていると、住んでいた土地や家が奪われているのに、その補償がすごくいい加減ですよ。あれはものすごく気になります。相当なダメージを受けているので、それをきちんと補償するような考えを取らないと、やっぱり皆反対しますよ。

稲田：どうですか？ 思うところがたくさんおありだと思いののですけれども。

—— ありますね。原子力技術そのものは純粋に科学技術ですから、それを否定するわけではないのですが、発電というところにいろいろな権益が絡んでいる。それに対して、やっぱりきちんと駄目なものは駄目とか、規制はこういうふうにするとか、国民が納得がいく形で進めるのならば、それはそれでまた意見が違うのかなと思うのですけれども、今のところは本当にやみくもに進めるという形になっている。しかも避難計画だって国はまったくタッチしない。地元任せにしている。こういう無責任な体制のもとでは、再稼働は認められないというのが私の意見です。

でも、それは原子力技術そのものを否定することとはまた全然別ですので、自分としては、その辺は分けて考えているつもりです。

—— おっしゃることももっともだなと思うところがありまして。やはり原子力は、国や経済界が、やるということを決めていて、それに対して原子力のメリットを説明していくというスタンスが今のやり方で。

福島事故が起こった今、世論を聞くと混乱するので、現状できないというのは分かるので
す。でも、やっぱり国民の意見をもうちょっと吸い上げるような、国としてこういう方向性
で行こうという議論はしなければいけないところであって、原子力を本当に進めるか、進め
ないかという議論は、福島事故以降もやらなかったのは残念だなと思っているところでは
あります。

今は、原子力という悪者をどこが受け付けるのか、その受け付ける対価として経済的な利
益を得るとい構図ができあがっているのです、原子力は悪、というイメージが先行してしま
う。そうではなくて、やはり原子力は必要だからうちの県はそれを責任持って引き受けます
よ、というスタンスが大切なのだと思います。

木村：それでは、グループトークはここまでにしておきましょう。

グループトーク Cグループ (2/2) 「私たちは原子力とどう付き合うか」

メリットをすなおに受け入れる。	福島事故の教訓を踏まえ、原子力発電は減らして再生可能エネルギーに転換していく。	安全って何か。事故が起こらないこと？	人が死なないこと？ 土地が使えなくなること？	原子力はエネルギー利用と放射線・放射性物質の利用である。
リスクを正しく認識する。	原子力発電に伴う技術の活かし方、産業としての取り組み方を考えていく。	1か0じゃない。	「事故0」は逆に危険。	原子力の利用は国民のためにある。その観点で追求。
災害が起きたときの対応を共有する。		地域振興につなげるには？		
原子力は絶対に安全なものではないので対策強化に力を入れる。		日本では重要なエネルギー源。		物事に完全はない。
メリット、デメリットを理解する。		リスクの認知とどのように向き合うか。		